

令和3年9月22日

病・医院長 様
施設長 様

気仙沼市医師会臨床検査センター
所長 菊地 淳一
(公印省略)

HbA1c採血管の使用について（お知らせ）

平素は、格別なご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

この度、日本糖尿病学会、日本臨床検査医学会、日本臨床化学会の3学会は、HbA1cで使用される採血管の取扱いに関する見解を公表いたしました。

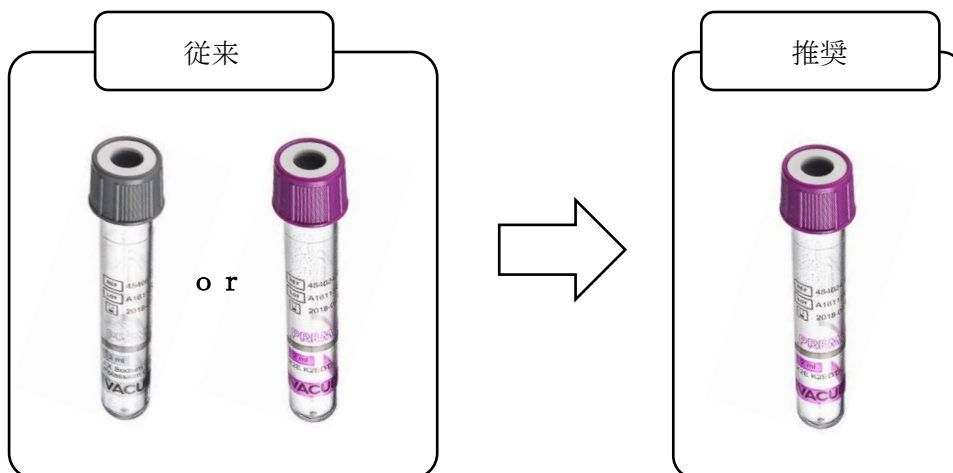
これまでHbA1cの測定には、血糖測定用NaF入採血管（NaF管/キャップ灰色）及び血球数算定用EDTA入採血管（EDTA管/キャップ紫）の2種類が用いられてきました。

日本糖尿病学会の糖尿病関連検査の標準化に関する委員会では、前者のNaF管において、全血検体を冷蔵保存した際に検体の塩濃度が高くなり、糖化が大きい老化赤血球が溶血し減少するために、**HbA1c値が平均4%低値**になると報告しています。

こうした点を踏まえ、3学会では溶血し難いEDTA管の使用を推奨するという見解を示しました。

当臨床検査センターにおいても3学会と同様に、**EDTA管のご使用を推奨いたします**ので、この機会に採血管の見直しをお願いいたします。

今後とも臨床検査の精度向上に努めてまいりますので、引き続きご利用くださいます様宜しくお願い申し上げます。



[参考文献]

- 1) 日本糖尿病学会糖尿病関連検査の標準化に関する委員会（2020）遠心処理後に測定するHbA1c測定法での採血管の取扱い（EDTA入り採血管の推奨）について．糖尿病 64巻5号（2021）